

(様式 1)

「未来の担い手育成プログラム研究指定校」実績報告書(1年次)

1 学校名等

学 校 名	綾部市立何北中学校				校長名	西山 由美
研 究 主 題	地域に学び、地域に貢献、夢を実現する生徒の育成					
研究の目的	「自ら学ぶ力」「人と関わる力」「想像する力」の弱さという課題を克服するために、正解のない問いを的確に捉え、自ら学びを計画し、他者と協働しながら学ぶ経験を積ませることが必要だと考える。そのために認知能力と非認知能力を一体的に活用して課題を解決する課題解決型学習を軸とした取組を実施し、主体的に学び仲間と協働し、自分の考えを豊かに表現する力や挑戦する力を育成する。					
学 年	1 年	2 年	3 年	特別支援	合 計	教職員数 ※校長・教頭を含む
学 級 数	1	1	1	1	4	13
生 徒 数	11	12	13	1	37	

2 研究校の概要

(1) 生徒の実態と研究課題

与えられた課題や自分ができそうな課題には素直に取り組むことができるが、他者と協働して課題を解決していく力や自分の考えを豊かに表現する力を付けていく必要がある。令和3年度京都府学力診断テストの質問紙調査や校区独自で継続して行っている「何北ブロックいきいきアンケート」の結果等からも、「自ら主体的に学ぶ力」「人と関わる力」「想像する力」に弱さが見られ、それらの基盤となる自己肯定感の低さも課題である。

設定された課題に対して個人だけでなくグループ等での活動を通して解決していく中で、調べ方、学び方、深め方など課題内容だけでなくその解決の過程で「学び」を深めていけるのではという考えのもと研究を進めた。

(2) 研究体制

校内研修で課題解決型の学習の研修を行い、各教科や領域でどの教員も、この手法を取り入れた授業が出来るように努めた。今後は研究活動を日々の授業にどう生かすかについての研修だけではなく、授業間の交流等を進めていったり、さらに系統立てた計画を立てたりする必要があると考える。

3 主な研究活動

「自ら学ぶ力」「人と関わる力」「想像する力」の3つの力を付けるには、正解のない問いに対して、その問いはどのような意味や内容なのかを的確に捉え、それを解決するための過程を自分で計画し、他者と協働しながら課題解決をしていくという経験が必要である。これを柱に生徒も教師も様々な角度から取組や研修を行いながら研究実践を進めた。

また、「きょうと明日へのチャレンジコンテスト」を2年生のゴールとすると共に1年生の取組のスタートと位置付けて全員に参加させた。さらに、「何北ドリカムDAY(何北ブロック一貫教育合同会議参観日)」での発表や綾部市独自のキャリア教育の取組とリンクさせ、1年生から積み上げていくよう、学習内容を検討しつつ実践を進めた。

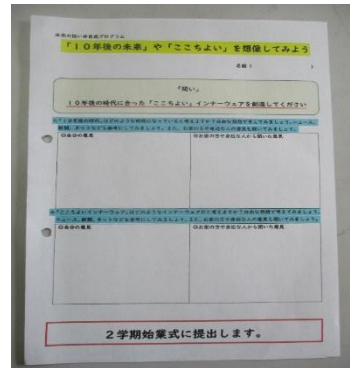
◆ 5月25日（水）

- ・グンゼ株式会社の方々に来校していただき、会社の概要を説明していただいたり、「10年後の時代に合ったインナーウェアを創造してください」という問いを提示していただいたりした。今後どのように課題に取り組むかの見通しを確認した。



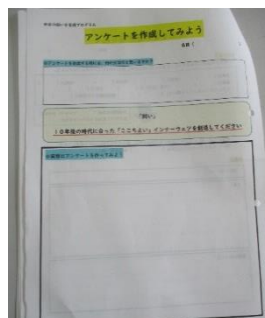
◆ 6月～

- ・グンゼ株式会社の研究開発について個人で調べてまとめたり、企業からの問いに対する解決方法を考えたりした。解決方法を3つに絞り、グループごとにテーマを設定した。各グループがテーマに沿って、資料を見たり、インターネットで調べたりして調べ学習を行った。



◆ 10月～

- ・グループごとに課題解決に向けた学習を行い、意見を出し合いながら、練り合った。また、調査用のアンケートを作成した。



何北ドリカムDAYでの発表

- ・「何北ドリカムDAY（何北ブロッカー貫教育合同会議参観日）」で未来の担い手育成プログラムを通して自分たちが付けたい力や、その活動内容を発表した。

◆ 12月～

- ・問答する中で様々な人々とコミュニケーションを図り、情報収集を行うため、京都市内で調査活動（アンケート調査）を行った。事後、結果を集計・分析し、それぞれの課題解決の資料とした。（12月12日）
- ・中間発表（12月15日）。グンゼ株式会社から担当の方々に来校していただき、各グループの発表を見ていただき、各グループに励ましと助言をしていただいた。事後研究会で課題解決の方

向性や質の向上の視点で助言いただいた。指摘いただいた点を参考に、再度グループで練り合い、内容を整理した。

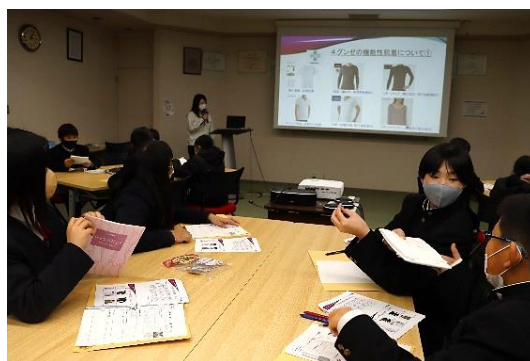


◆ 1月～

- ・ 2年生：「中学生“みらい”会議」（綾部市主催）
- ・ 1年生：キャリア講演会（綾部市主催）



- ・ 1年生：ゲンゼ株式会社訪問



#### 4 今年度の研究の成果と検証

##### (1) 認知能力の向上に関して

- ・ 「未来の担い手育成プログラム」と「河北ドリカムDAY（河北ブロック一貫教育合同参観日）」、「中学生“みらい”会議」を連動させて取り組ませたことで、1度きりで発表が終わるのではなく、さらに熟考したり、励ましや助言をもらえたりする機会が増え、伝え方や発表の仕方に工夫を重ねることができた。
- ・ 課題解決型学習の手法を学ぶことで、自分の意見を伝える、他者の意見を聞く、そして協働して課題を解決するという主体的で探究的な学びにつながる学習機会を作り出すことができた。また、教師側も課題解決型学習の研修を受けることで理解が深まり、教科・領域で取り組む機会が増えた。

##### (2) 非認知能力の向上に関して（学習と生活等に係るアンケートの分析）

質問項目（抜粋）	6月実施	11月実施	変容
	肯定的な回答	肯定的な回答	推移
①難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している。	58%	67%	向上
②自分で計画を立てて、家で勉強をしていますか。 （学校の授業の予習や復習を含む）	42%	33%	低下
③授業の中での、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していますか。	67%	58%	低下
④学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。	75%	83%	向上
⑤総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表するなどの活動に取り組んでいる。	67%	92%	向上

- ・⑤の結果のように、総合的な学習の時間の取組については意識して取り組んでいるが、他の場面でも意識化できるように、さらに取組を工夫する必要がある。

### (3) その他

- ・1年生が「きょうと明日へのチャレンジコンテスト」に参加したり、グンゼ(株)及び福知山公立大学で講義を受けたり、さらには大学生と意見交流したりするなど、系統的なキャリア教育を推進できた。
- ・ホームページ、学級通信、学校だよりなどで、生徒の取り組む様子や感想等を発信することができた。そのことは学校運営協議会でも高く評価していただいた。

## 5 今年度の課題

表現力育成のための年次の目標（ルーブリック）を作成し、以下のような観点で長期的にアプローチや検証をしていく必要がある。

### ア 表現活動（話し方や伝え方など）について

例) 1年：原稿を作成する。原稿にまとめたことを伝えることができる。

2年：メモを作成する。メモを参考に伝えることができる。

3年：即興で伝えたり、質問に答えたりできる。

### イ 発表の仕方について

課題に対して、ICT（プレゼンテーション用アプリ等）を活用することで、より効果的な発表につながる方法を開発する。

## 6 事業終了後の研究構想

- (1) 引き続き、2月を2年生の取組のゴールと1年生の取組のスタートし、持続可能な学習となるようにする。
- (2) 課題解決型の学習の手法を用いた学習機会を教科・領域で意識的に持つようにする。
- (3) 質問紙調査やアンケート調査で数値化した効果検証を継続して行う。